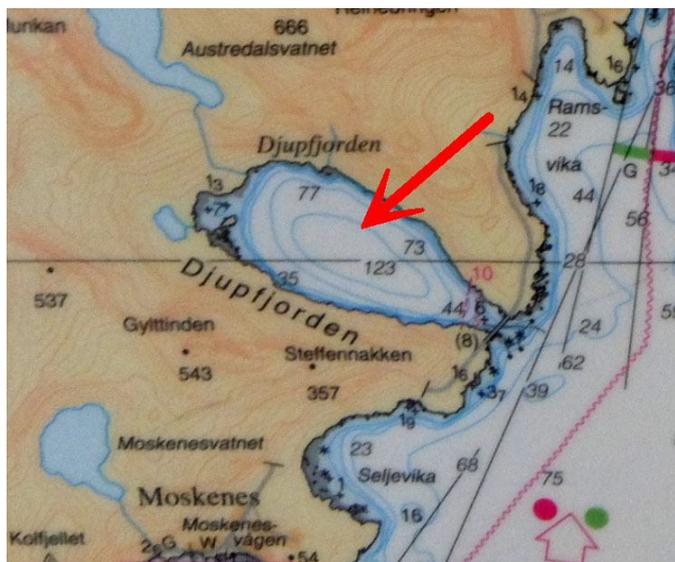


「北極圏旅行記 2017 夏 (17)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/29 最果ての Å 村へ～

憧れの風景「レイネ」を満喫したあとは、もうひとつの「最終目的地」、Å 村へ向かうことにした。Å 村は、ロフォーテン諸島で一番端にある最果ての村である。途中、海図を見て気になっていた Djupfjorden (デュプフィヨルド) に寄ってみることにした。



デュプフィヨルドは、普通の長細いフィヨルドとちがって、風船型で奥行きもあまりない。周囲の地形を見ると、もう少し海進が大きければ、更に奥行きのあるフィヨルドになっていただろう。



小さなフィヨルドだが、国道で大回りするのは大変なので、湾口に大きな橋がかかっている。この橋には歩道もついているので、橋の手前の駐車場に車を止め

て、橋の上を歩いてみることにした。



実に壮観、雄大な眺めだった。小さなフィヨルドとはいえ、深さは123メートルもある。大型船が進入しても座礁する心配はない。海とはいえ、水面は池のように穏やかだ。私はボートを借りて、このフィヨルドの水面を漂ってみたいと思った。



私が Å 村に行ってみようと思ったのは、2003年の夏にノルウェー沿岸を旅行した時、この標識に出会った時である。この時は左折して **Narvik** (ナルヴィク) に行ったが、**Å i Lofoten** という標識に、非常に心ひかれた。「ロフォーテンの Å 村」という意味である。当時はまだロフォーテン諸島の各島を結ぶ橋は完成しておらず、途中フェリーに乗る必要があった。2009年にすべての橋とトンネルが完成し、一番端の Å 村まですべて陸路で行けるようになった。

今回私は、ボーデからフェリーを使ったが、帰り道は、この **E10** 号線を陸路でたどることになる。2003年以来、14年ぶりに夢が実現したことになる。そのゴールの Å 村が、もう目と鼻の先にある。ちょっと信じられないような気持ちだった。



フィヨルドからÅ村までは、車で10分ほどである。この道も「欧州国際一級国道E10号線」なのだが、左には海、右に岩壁が迫り、道幅はどんどん狭くなる。



ついに制限速度が30km/hになってしまった。岩峰が迫っているのだから、家々も国道ぎりぎりに建っている。



キャンピングカーや、大型バスも多いので、すれ違いが困難な場所も多い。しかも慣れない左ハンドル、

右側通行なので、運転は慎重にならざるを得なかった。



私はナビ画面を見て、思わず「オー！！」と叫んでしまった。Åと表示されている。ついに車はÅ村の領域に入ったようだ。



数分後、ついに「ここからÅ村」という標識にたどりついた。幸い、右路肩がちょっと広がっていたので、わざわざ車を停めて、記念撮影をした。私は旅先で自分が写真に写ることはあまりないのだが、この時は同行者に頼んで、この看板の下で写真を撮ったものである。

ロフォーテンの最果てÅ村を目指して、ヨーロッパ各地から来る旅行者は多い。私が写真を撮っている間にも、後ろのバイクと自転車の旅行者が「順番待ち」をしていた。人気の標識なのだ。